てだこ市民大学第３期生

「卒業研究レポート」概要集

＜第３期生　３６名＞

コミュニティビジネス・地域振興学部・・・・６名

健康福祉・スポーツ振興学部・・・・・・・・・７名

文化振興・教養学部・・・・・・・・・・・・・１４名

地域・学校支援コーディネーター養成学部・・９名

平成 25 年 3 月 10 日

浦添市「てだこ市民大学」

平成24年度 卒業研究テーマ

コミュニティビジネス・地域振興学部

	氏 名	テーマ
1	石原 定江	出張美容“クイック・カット”でビューティフルに！ ～わが地域の高齢者を笑顔に～
2	稲福 英子	高齢者が地域で楽しく生き生き過ごせる環境づくりを目指して～楽しい食事作りと会食を通して～
3	木下 裕夫	災害時のロジスティックスの構築 (浦添市を災害対応最先端モデル地区にする)
4	下門 和政	地域の「困った」を地域で解決していく方策 ～新しい公共事業「お助けよろずや」の設立を通して～
5	新城 直子	心の病にかかった人たちの自立支援にむけて
6	鈴木 紀子	日本や沖縄の文化のよさを子ども達に伝えよう！ ～わらべうたや遊びを通して～

てだこ市民大学

卒　業　研　究

コミュニティ・ビジネス
学部名：地　域　振　興　学部

氏　名：石　原　　定　江

1．テーマ

出張美容“クイック・カット”でビューティフルに！

（　わが地域の高齢者を笑顔に　）

2．テーマ設定理由

“持っている資格及び市民大学で学んだことでの地域への貢献”

・地域の人たちと共に良い環境作り、そして高齢者にとって心豊かに暮らせるよう、手助けできることから始めようと考えた為。
・高齢者でも、介護の必要のない元気で、健康に対しても高い意識を持っている方達の素敵になれる手助けをし、さらに寛ぎと喜びを持って暮らせる心温まる環境の場と生活の質の向上に貢献できたらと思いました。

3．項立て

（1）テーマ設定について

（2）現状把握と事例調査について

（3）ニーズを考える

（4）ビジネストとして成立させるために

（5）連携できる施設・組織について

（6）ビジネス形態別比較表

（7）今後及びこれからしたいこと

（8）参考文献

研究概要様式１

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：　コミニュティービジネス地域振興学部

氏　名：　稲　福　英　子

１．テーマ

高齢者が地域で楽しく生き生き過ごせる環境づくりを目ざして

～　楽しい食事作りと会食を通して　～

２．テーマ設定理由

高齢社会、目まぐるしい社会の急激な変化に伴い、それぞれが忙しく,また，人との関わりが以前に比べ大きく変わってきた。テレビや周囲の状況を見ても何となくさびしい思いとこれでいいのかなと思っていた。そのような矢先、テレビで大宜見村の喜如嘉のおばあさん達がお昼時、自分で栽培した野菜を持ち寄りお料理する光景に出合った。「いつもこうして作って食べているよ」と楽しそうでした。昨今、お年寄りや子ども達の孤食が増えたと聞こえる中、この様子を見たとき、なんと心温かい雰囲気だろうと思った。一日の生活の中で楽しく時間を過ごす食事時、一人住まいのお年寄りが少しでも笑顔で食卓に向かうことの活動ができないものだろうか。

高齢者でも自分ができる事は進んで行い、持っている機能を生かし、一人では難しいことでも複数でおしゃべりをしながら一緒に食事作りを提供できるマーケティングについて考えようと思い本テーマを設定した。

３．項立て

研究内容

（１）　高齢者の実態

（２）　必要度について（アンケートより）

（３）　実施にあたって

　①　条件

　②　手法

　③　実践（試み）（地域のｋさんと一緒に）

（４）　まとめと課題

（５）　おわりに

※参考資料

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：ｺﾐｭﾆﾃｨﾋﾞｼﾞﾈ・地域振興学部

氏　名：木　下　裕　夫

1．テーマ

災害時のロジスティクスの構築

（浦添市を災害対応最先進モデル地区にする）

2．テーマ設定理由

3・11大災害時に物流が途絶えた教訓を基に、官・民・業一体となった物流ネットワーク構築が課題となった。このネットワークをさらに進化させ、アジアにおける「万国津梁」のネットワークを構築したい。

3．項立て

Ⅰ　はじめに

Ⅱ　目指すもの

Ⅲ　今回の震災でわかったこと

Ⅳ　支援物資の供給フロー

Ⅴ　物流ネットワーク

Ⅵ　ネットワークを維持・発展させるために

Ⅶ　アジア地域のロジスティクス・ネットワークの構築

Ⅷ　おわりに

資料

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部
氏　名：下門　和政

1、テーマ

地域の「困った」を地域で解決していく方策

～新しい公共事業「お助けよろずや」の設立を通して～

2、テーマ設定理由

超高齢化、一人暮らしの高齢者及び高齢者世帯の増加それに伴い福祉・医療の負担が増えそれにより財政が圧迫している今、福祉、福祉と言って自治体から面倒を見てもらうのではなく、少しでも財政の負担を軽減するため、自分達が自分達で自立する仕掛けを考える必要があるのではないか？地域で出来るところの身近な「困りごと」は地域で解決する方向をみいだしたい。

２年間、てだこ市民大学で学んだコミュニティビジネスの知を生かし、私の所属する西原町の老人クラブ（つつじ会）で、小さなサービスお助け隊「よろずや」の設立、交通弱者の交通形態の確保や、特定検診受診率アップのお手伝いをすることで超高齢化社会へ対応していきたい。

3、項立て

１、テーマ設定理由
２、はじめに
３、つつじ会（小波津団地老人会）現状
４、本論
　①　「新しい公共事業」の考え方について
　②　小さなサービスお助け隊「よろずや」の設立
　③　交通弱者の交通形態の確保への対応
　④　特定健診受診率アップへの対応
５、まとめ、
※　参考文献（資料）

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏　名：新城直子

1．テーマ

心の病にかかった人たちの自立支援にむけて

2．テーマ設定理由

知り合いに心の病で引きこもりになっている人がいて、精神障害者へ関心を持つようになり、さらに、心理学を学んでいる娘から精神障害の話を聞くことにより、一層、障害者への支援について関心が高まった。そのことがきっかけとなり、働く意欲と能力をもった障害者が自分にあった働きができるように支援したいと思うようになった。彼らの居場所をつくり、そこで、コミュニケーションをしたり、作業をしたりすることで彼らの自立支援に寄与できたらと考えている。彼らが働くことで少しずつ自信をもち、社会の中で役立つ自分をみつけ、今より楽しい人生が送れるよう後押ししていきたいと思い、本テーマを設定した。

3．項立て（概要でも良い）

1. テーマ設定理由

2. 研究内容
（1）精神障害者の現状
（2）精神障害者支援センターの調査
①カフェはなはな（就労継続支援Ａ型事業）
②あごら（那覇市地域活動支援センター）
③あおぞら（浦添市生活支援センター）
④いじゅの木（指定就労移行支援事業）

（3）私の考える支援のあり方と構想
①支援のあり方
②構想

3．まとめ
※参考文献・資料

研究概要様式１ 卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：コミュニティビジネス地域振興学部
氏　　名：鈴木紀子

１．テーマ

日本や沖縄の文化のよさを子ども達に伝えよう！

～～わらべうたや遊び等を通して～～

２．テーマ設定理由

私たちの沖縄は独特の文化をもっている。しかし、時代の流れとともにマスコミや多様な文化の影響を受け、足元の古き良き文化が遠のいていくように感じられる。

「わらべうた」もその一つで、私の世代には当たり前のように歌い継がれていた沖縄のわらべうたや昔ながらの遊びが、子どもの世界から失われていくように感じられる。わらべうたや遊びには、子どものためになる要素がたくさんあると考えられるからである。私の幼い頃は、自然の中を遊び場とし、わらべうたを歌い、異年齢で構成される集団の中でつながりをもちながら成長してきた。

遊具等物のない環境にあっても、自然の中でわらべうたや人とのつながりの中で豊かに育まれてきたように思われる。この頃は、わらべうたを知る人や伝え残そうといった動きがあまり見られなくなってきたように感じられる。したがって、受け継いできた私たちの世代が、子ども達に伝えていく必要性を感じている。

ユネスコで沖縄の組踊が無形文化遺産に登録され、沖縄の芸能の素晴らしさが認められ、必然的にしまくとぅばの継承も重視されてきている。しまくとぅばを始め、わらべうたや自然の中での遊び等、よい文化を子ども達の成長過程で伝えていくにはどうしたらよいのかを考えたいと思い、本テーマを設定した。

３．項立て（概要でも良い）

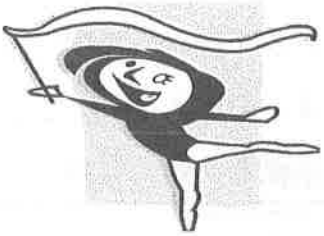
１．　テーマ設定理由
２．　研究内容
　（１）　文献に見るわらべうたの意義
　（２）　わらべうたの変遷
　（３）　わらべうた等沖縄の文化を児童に広めるための実践活動の事例
　（４）　浦添市でわらべうた活動を広めるための考察
３．成果と課題
４．おわりに

※ 参考文献・資料

平成24年度　卒業研究テーマ

健康福祉・スポーツ振興学部

	氏　名	テーマ
1	新垣　政枝	これからの介護福祉のありかた ～社会・地域・家族の連携を通して～
2	上地　徳一	高齢社会における地域コミュニティーづくりをめざして
3	翁長　律子	健康づくりへのアプローチ
4	照屋　典子	ダウン症児(者)と療育 ～水中運動・水泳および居場所づくり～
5	平安　眞知子	生涯スポーツを通しての健康づくり
6	松田　ミサ子	心の病「うつ」を知り大切な命を守る～誰もがなりうる「うつ」について理解し、関わり、繋ぐには～
7	石川　智	健康のありがたさを伝えたい～生涯学習を通して～



卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：　健康福祉・スポーツ振興学部

氏　名：　新　垣　政　枝

1．テーマ

これからの介護福祉のありかた

～社会・地域・家族の連携を通して～

2．テーマ設定理由

高齢社会が進む現在、介護が必要な高齢者が増えることに伴い、介護する人の高齢化や経済・精神面の負担、さらに働いている女性への負担等、家族に大きな負担になっている。そのような背景から平成12年に介護を国民みんなで支える社会保険制度「介護保険制度」が制定された。しかし、介護する側を身近にみるとまだまだ課題が大きいと実感している。

社会・地域・家族と連携しての介護福祉の道を考えたいと思い、本テーマを設定した。

3．項立て（概要でも良い）

1．テーマ設定の理由

2．本論

（1）浦添市の介護福祉について

（2）浦添市の介護人口について

（3）浦添市の介護施設について

（4）地域に密着した支援介護について

3．結論（これからの介護福祉はどうすればよいか）

4．おわりに

※参考文献・資料

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：　健康福祉・スポーツ振興　　学部

氏　名：　　上地　徳一

1．テーマ

高齢化社会における地域コミュニテイーづくりを目指して

2．テーマ設定理由

私の住む浦添グリーンハイツ地域では高齢化の波が押し寄せ　２０１２年現在高齢化率が２８％と市内第４番目の高さとなっている。
高齢化の進む中で、健康問題や生活等の不具合がより多く生じてくると思われる。安心・安全で住みよい環境づくりをしていくため　援護を必要とする高齢者や障がい者等の手助けをしていかなければならないと痛感している。
そこで　まず　要援護者のＭＡＰづくりや小さなお助けマン運動から取り組む必要があると考え　本テーマとした。

3．項立て（概要でも良い）

Ⅰ.設定理由

Ⅱ．研究内容

1．　自治会の紹介
2．　本題ＭＡＰづくり「要援護者」とは何か
3．　先進地の調査から
4．　実践活動
　（1）要援護者支援会議
　（2）小さな親切運動＝高齢者世帯への「お助けマン」運動
　（3）さわやか地域相談室の開設
　（4）自治会活動
　（5）グリーンハイツ若竹会（老人会）への加入
5．　成果と課題
6．　今後の対応（計画・実践）

Ⅲ.終わりに

＊参考資料

研究概要様式1

卒 業 研 究

学部名：健康福祉スポーツ振興学部

氏 名：翁長 律子

1. テーマ

健康づくりへのアプローチ

2・テーマの設定理由

21世紀は、科学的な健康づくり、疾病予防がもとめられる時代
長寿社会に必要な事は、疾病の予防であると考える

3. 項立て(概要でも良い)

1. 現代人の生活習慣と健康状態
   - A 日本人の余命と寿命
   - B これからの健康管理
2. 栄養・食生活 － 食べすぎない
3. 身体活動・運動 － どのような運動がよいか
4. 休養-心の健康づくり
5. 生活習慣病の予防
   - A メタボリックシンドロームの予防
   - B がんを防ぐための12カ条

※参考資料 生活習慣病の予防
生活習慣改善マニュアルより

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：　健康福祉・スポーツ振興学部

氏　名：　照屋　典子

1．テーマ

ダウン症児（者）と療育

～水中運動・水泳および居場所づくり～

2．テーマ設定理由

０歳から始めた（現在25歳）水泳を療育の一環で続け、生活習慣に取り入れたことにより思春期以降の適応障害や急激退行を起こすことなく日々はつらつと生活を営んでいる娘。

自身の子育ての経験により学んだことを同じ状況で悩みを持っている人に知ってもらい、少しでもよりよい生活が送れることの参考になればと思いテーマを設定しました。

3．項立て（概要でも良い）

1．テーマ設定理由
2．研究内容
　（1）ダウン症とは？
　（2）ダウン症のよく罹る病気
　（3）社会性の発達
　（4）仲間関係、集団適応
　（5）急激退行
3．効果
4．考察

※療育に関わっていただいた関係者等からのメッセージ

図 1研究概要様式1

てだこ市民大学

卒業研究

学 部 名:健康福祉・スポーツ振興学部

氏　　名: 平安 眞知子

1.テーマ

生涯スポーツを通しての健康づくり

2.テーマ設定理由

全国健康福祉祭“ねんりんピック”ソフトバレーボール交流大会に参加して、健康であることの喜びや・スポーツを続けられる素晴らしさを地域や世代を超えた多くの人たちに伝え、健康な浦添市を作るための方策を考えたいと思いテーマを設定としました。

3.項立(概要でもよい)

1.テーマ設定の理由

2. 本　論
　(1) 浦添市の健康状態
　　① 浦添市の健康、医療の実態（データー）
　　② 私の健康チェック
　(2) 生涯スポーツの方針
　(3) 所属バレーボールチームの現状
　(4) 健康づくりへ生涯スポーツをとり入れる方策

3. まとめ
4. おわりに

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏　　名：松田　ミサ子

1．テーマ

心の病「うつ」を知り大切な命を守る

～誰もがなりうる「うつ」について理解し、関わり繋ぐには～

2．テーマ設定理由

現代社会において、勝ち負けの競争社会の中ストレスのため、脳が疲れ、身心のエネルギーが枯渇する病気が「うつ」である。年齢、性別に関係なく、誰もがなりうる「うつ」について身近な病として捉えた。

3．項立て（概要でも良い）

はじめに

1　「うつ」の現状

2　「うつ」と自殺について

3　「うつ」のサインと自己チェック

4　「うつ」の人との接し方のポイント

5　困った時の相談窓口

6　今後の展開に向けて

7　まとめ

8　おわりに

9　参考資料

研究概要様式１

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：　健康福祉・スポーツ振興学部

氏　名：　石川　智

１．テーマ

健康のありがたさを伝えたい～生涯学習を通して～

２．テーマ設定理由

私は20歳の頃の大事故で心身に障害をもつようになった。体も思うようには動かず、考えもスムーズには働かない。現状を受け入れるのに時間がかかった。生き方そのものもネガティブな考えになっていた。そんな時、姉の言葉をきっかけに、市民大学へ入学することになった。1年目は体調不良が続きなかなか講座にでることが難しく、留年することになった。2年目再度挑戦しようと復学。又1年次から出直しだった。しかし、思い切って復学してつかんだものは大きかった。まず、学部の仲間が困ったときは必ず助けてくれたり、相談に乗ってくれたり、一緒に地域参加活動をしてくれたりと、人との係わりの大切さを学んだ。

仲間の支えと講座の内容のすばらしさから、自分が元気になっていく姿がある。考えもポジティブになり、活力が湧き出してくる。一番変わったのは、ボランティアができるようになったことだ。自分でもやれる社会貢献の道が開けてきたと思う。

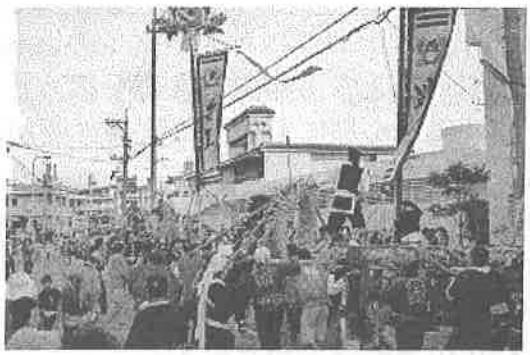
健康であるためには、体だけでなく、学びの心をもち、仲間をつくり、できるだけの社会貢献をしていくことが心の健康につながると思い、テーマ設定理由とした。

３．項立て（概要でも良い）

１．テーマ設定理由
２．研究内容
　（１）障害者の実態（全国、県、市）
　（２）障害をもってからの自分
　（３）市民大学で学んだもの
　（４）仲間とのつながり
　（５）障害者でもできる社会貢献について
３．成果と課題
４．終わりに
※参考文献

平成24年度　卒業研究テーマ

文化振興・教養学部

	氏　名	テーマ
1	金城　香代子	暮らしの中の沖縄のカタチ ～暮らしの中からつなぐ“沖縄らしさ”～
2	島元　智	ガイドブックで案内する歴史ガイドをめざして～浦添市を中心とする「琉球の歴史案内書」の作成を行う～
3	伊芸　幸恵	うらそえの文化を伝えよう 
4	伊禮　昭	
5	伊禮　さやか	
6	上原　常子	
7	崎原　和枝	
8	志賀　マサ子	
9	島　明美	
10	島袋　洋一	
11	新城　英子	
12	新城　かつ子	
13	瑞慶覧香代子	
14	知念　賢世	

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：文化振興・教養学部

氏　名：　島　元　　智

1．テーマ

ガイドブックで案内する歴史ガイドをめざして

～浦添市を中心とする「琉球の歴史案内書」の作成を行う～

2．テーマ設定理由

昭和１０年代、本土のプロカメラマンの坂本萬吉さんが、沖縄行きは「異端者」を見る目で見られたと言う中で、沖縄を撮った。その作品集は圧巻である。

かつて、沖縄にこんなにも優美で霊験な姿があったのかと、つい感嘆の息が漏れてしまう。

その作品の多くは、戦争で失っている。もし、坂本さんがあの時沖縄に渡っていなかったら、あの作品は生まれていない。そう考えると、今撮れるものは何かと思う。この思いが市民大学入学の理由で、全てを写真でガイドするガイドブックの作成。これが小生の夢であります。

3．項立て（概要でも良い）

「浦添市を中心とした琉球の歴史案内書」の内容

１．琉球開闢の神話時代

２．浦添の歴史案内

３．その他の歴史案内

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：　文化振興・教養学部

氏　名：　　金城　香代子

1．テーマ

「暮らしの中の沖縄のカタチ　―暮らしの中からつなぐ“沖縄らしさ”―」

2．テーマ設定理由

沖縄にある工芸品を地元・沖縄の人たちにもっと知ってもらいたい、ぜひ普段の生活に取り入れてもらいたいと考えた。
沖縄の工芸品は「お土産品」など特別なモノとして見られることが多い。普段の暮らしをイメージする「空間」を設け、工芸品で構成して見せることで、「特別なモノ」から「生活で使うモノ」としてのイメージを見せることができるのではないか。
また、現在の生活スタイルの中でも「利用しやすい形」、「利用したくなる形」を考えることで、より身近なモノ、身近に置きたいモノという見方を持ってもらえるのではないか。
現在の暮らしの中に工芸品を取り入れることで、薄れつつある「沖縄らしさ」を伝えることもできるのではないか。工芸品の形や手触り、醸し出される空気を体感してもらい、沖縄の人たちに沖縄のモノの魅力を感じてもらうきっかけになればと考え、テーマを設定した。

3．項立て（概要でも良い）

1．テーマ設定理由
2．研究内容
　（1）沖縄の工芸品についての考え
　（2）「第 10 回沖縄市工芸フェア」での実践
　（3）「第 10 回沖縄市工芸フェア」での成果と課題
3．浦添市への提案
　（1）一つの事例（給食会での様子―仲西小学校にて）
　（2）給食会の漆器体験から
4．おわりに

卒　業　研　究

学部名：　文化振興・教養　学部
氏　名：　伊芸幸恵、伊禮昭、伊禮さやか、上原常子、崎原和枝
志賀マサ子、島明美、島袋洋一、新城英子、新城かつ子
瑞慶覧香代子、知念賢世
（制作・出演協力）金城香代子、島元智

1．テーマ

うらそえの文化を伝えよう

2．テーマ設定理由

首里以前の琉球王国（中山）の都は浦添であったとされ、市内の随所にその名残を認めることができるのは市民の誇りとするところである。

浦添グスクに代表される有形の文化遺跡はそれほど懸念することなく保存・継承されていくことと思われるが、獅子舞に代表される伝統芸能などの無形の文化遺産の現状はどのようなものであろうか。われわれの祖先が大事に伝承してきた文化には、地域を結ぶ知恵があり、確実に次世代へ伝えていかなければならないものであるが、その現状を知ることによって継承のヒントを知り得るのではないだろうか。

さらに、浦添に伝わる昔話を「方言劇」と「紙芝居」にリメイクして作品を作り、「うらそえの文化」をウチナーグチにより伝える試みとして、文化振興学部全員で取り組んだものである。

3．項立て（概　要）

Ⅰ　テーマ設定理由
Ⅱ　本　論
　1　浦添の民俗芸能の由来について
　　(1)　勢理客の獅子舞
　　(2)　内間の獅子舞
　　(3)　仲西の獅子舞
　　(4)　西原の大綱引き
　　(5)　小湾のアギバーリー
　　(6)　前田の棒
　2　浦添に伝わる伝統的年中行事について
　3　浦添に伝わる昔話、民話について
　　（1）　日本の昔話
　　（2）　沖縄の昔話
　　（3）浦添の昔話
　4　文化振興・教養学部としての試作・実践について
　　（1）方言劇「モーイ親方」の脚本作成と実践について
　　（2）紙芝居「母の木」作成と実践について
Ⅲ　成果と課題
Ⅳ　おわりに

※　資料
※　参考文献

平成24年度 卒業研究テーマ

学校支援コーディネーター養成学部

	氏 名	テーマ
1	飯島 清美	自治会活動の活性化と自治会加入率を上げるためには～自治会に対するアンケートを通して～
2	池原 広人	日常とてだこ市民大学
3	上田 順子	二年間の学びを通して今後の取り組みを考える～子育て中の親への支援について～
4	上間 諒子	みんなで繋ぐ「港川っ子応援隊」～PTA活動を通した学校支援地域本部～
5	金城 朱美	～ながら見守り隊をつくろう
6	具志 憲人	いま求められる学校支援のあり方～学校支援ボランティアの活動を通して～
7	謝花 博一	学童保育を通して思う学校支援
8	玉城 敏子	物を大切にする心・思いやりやいたわりの心・命を大切にする心を育むために～日本の伝統文化の生け花・茶道を通して～
9	西原久美子	学校支援コーディネーターのあり方に関する考察～学校支援ボランティアの経験を通して～

卒　業　研　究

学部名　地域・学校支援コーディネーター養成学部
氏　名　　飯島　清美

1　テーマ

自治会活動の活性化と自治会加入率を上げるためには
～　自治会に対するアンケートを通して　～

2　テーマ設定理由

平成22年12月より浦添ニュータウン自治会の事務として携わる中で自治会への加入率低下や自治会費納入率の低下、自治会員の高齢化等の問題点が見えてきた。自治会活動に積極的に参加する年代は、自治会草創期の会員である60～80代の方々で、中間層の30～50代の参加率が低くなっている。今後ますます高齢化が進む中での中間層の自治会離れを食い止められるよう、自治会とその活動に関するアンケート調査を実施し、自治会活動の問題点や課題を明確にし地域の活性化につなげていくために、今回の研究テーマ設定にした。

3　項立て

1、テーマ設定理由
2、本　論
　(1) アンケート実施と結果
　(2) アンケート結果の分析
　(3) 地域の課題
　(4) 解決策の考察
3、今後の展望
4、終わりに(謝辞)
※　参考文献・資料

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：地域・学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成学部

氏　名：池　原　広　人

1．テーマ

日常とてだこ市民大学

2．テーマ設定理由

愛知県刈谷市から沖縄県浦添市に移り住み三年が経過しました。そこで、てだこ市民大学の二年間の学習を通し、日常との関連について考える。

3．項立て（概要でも良い）

1．二年間の学習内容

2．学習資料を読み直し、まとめる。

3．てだこ市民大学で学び得たこと。

4．まとめと謝辞

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：地域・学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成学部

氏　名：上　田　順　子

1．テーマ

二年間の学びを通して今後の取り組みを考える

～子育て中の親への支援について～

2．テーマ設定理由

現代の社会状況は物質面の豊かさと反して、人と人との繋がりが薄く、共働きや離婚による家庭の絆も弱くなっていると思われる。子供が心身豊かに成長し社会に活躍する姿は親の願いですが、子育ての不安や心配は多い。親が少しでも安心して子育て出来るよう支援をしていきたいとのテーマを設定しました。

3．項立て（概要でも良い）

1．テーマ設定理由

2．研究の内容

（1）沖縄県の結婚、出産、離婚の他県との比較

（2）若い世代の人口増加

（3）出産後直ぐ働き始める親

3．問題点と課題及びその解決策について

4．まとめ及び考察

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：　地域学校支援コーディネーター　学部

氏　名：　上間　諒子

1．テーマ

みんなで繋ぐ「港川っ子応援隊!!」

～ＰＴＡ活動をとおした学校支援地域本部～

2．テーマ設定理由

ＰＴＡ事務として学校や保護者の方々と連携しながら活動をしていて、本校において学校支援地域本部の立ち上げを推進する為の秘策や、ＰＴＡ活動と学校支援地域本部の関係性を探る中、毎年ＰＴＡが主催する【港川っ子フェスティバル】での実践事例を中心に、地域自治会、地域事業所、保護者、学校支援ボランティアの方々との連携を纏める事で、学校支援地域本部の人材の基礎となる人材バンク「港川っ子応援隊」の設立を目指す事を目的として卒業研究のテーマ設定とした。

3．項立て

（1）はじめに
（2）テーマ設定理由
（3）実　態
　・現在の学校周辺の現状と地域連携
（4）具体的な取り組み
　・【港川っ子フェスティバルをとおして】

　・【地域活動をとおして】

（5）考察

4 まとめ

5 謝 辞

てだこ市民大学

卒　業　研　究

地域学校支援

学部名：コーディネーター養成学部

氏　名：　金　城　朱　美

1．テーマ

～ながら見守り隊をつくろう

2．テーマ設定理由

私は、現在交通安全見守りを行っていますが、朝のあいさつ、声かけがとても大事に思っています。子ども達が元気に登校して気持ちよく学べるように、毎日楽しく笑顔で過ごせますようにと願っています。昔に比べると子ども達を取り巻く環境も変わってきて、異年齢の方たちとの交流や関係も希薄になっています。地域の方たちにも関心を持ってもらい、地域ぐるみで見守り隊をつくって地域の活性化にもつなげていけたらと発案しました。

3．項立て（概要でも良い）

1）　テーマ設定理由

2）　研究内容

（1）これまでの私自身の活動について

（2）子ども達を取り巻く安心安全の問題

・浦添市内の子どもが関係する事故発生件数と時間帯

・不審者情報

・前田小学校区内での交通安全指導者等の取り組み

3）　考　察

4）　これからの取り組み

5）　ま　と　め

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：地域・学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成 学部

氏　名：具　志　　憲　人

1．テーマ

いま求められる学校支援のあり方
～学校支援ボランティアの活動をとおして～

2．テーマ設定理由

仲西中学校（学習支援ボランティア、生徒指導）、浦添小学校（ドリル丸付け）での学校支援ボランティア体験を踏まえて、その必要性と今後の課題について纏め、学校支援の更なる発展に貢献したくテーマ設定を行いました。

3．項立て（概要でも良い）

1．はじめに

2．学校現場の現状

3．現状から見える学校支援の必要性と今後の課題

4．考察

5．今後の活動予定

6．おわりに

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏　名：謝花　博一

1、　テーマ

「学童保育を通して思う“学校支援”」

2、　テーマ設定理由

子どもが通う学童保育の役員・保護者として６年間関わり、現在は神森小学校の PTA 会長として関わっている。学校、学童保育も保護者の協力が不可欠だが、学校行事や PTA 行事などに参加する保護者が昨今少なく、地域の人間関係が希薄化する中で、学童保育に携わった経験を生かし学校支援に結びつける事をテーマとした。

3、　項立て

（1）　テーマ設定理由

（2）　実態
- 児童数と学童児童数（神森小学校）
- 実態調査の分析

（3）　学童保育の取組み
- 保育方法
- 行事

（4）　学校支援に結びつく学童保育の支援
- 具体的な支援方法
- 長期スパンに向けての支援方法

（5）成果と課題

てだこ市民大学

卒　業　研　究

学部名：地域・学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ養成学部

氏　名：西原　久美子

1．テーマ

「学校支援コーディネータのあり方に関する考察～学校支援ボランティアの経験を通して～」

2．テーマ設定理由

「じっと席に座れない，先生の話に集中できない子」の様子を授業参観で見かけ、私に何か出来る事は？何かお手伝いがしたい。でもどうやって？と模索している時、「地域・学校支援コーディネータ養成学部」に出会い、学校・地域の事情が少しずつ見えてきた。

市民大学での学習とそこでの沢山の人とのつながりで学校支援に携わるようになり、経験を通した考察をすることによって、今後のサポートをより充実したものにするため、本テーマを設定した。

3．項立て（概要でも良い）

1　はじめに
2　本論
　（1）学校支援について
　　①　学校ボランティアの必要性（実態より）
　　②　ボランティアについての考察
　（2）小学校の現状（アンケート調査の結果）
　（3）学校支援ボランティア活動を通して
　（4）浦添市の地域本部事業の状況
　（5）考察
　　①地域本部事業
　　②ボランティア活動の結果
　　③自治会・婦人会との連携について
　　④市民大学の仲間との連携について
3　おわりに

卒　業　研　究

てだこ市民大学

学部名：地域・学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成 学部

氏　名：玉　城　敏　子

1．テーマ

物を大切にする心・思いやりやいたわりの心・命を大切にする心を育むために　～日本の伝統文化の生け花・茶道を通して～

2．テーマ設定理由

今日、子ども達の犯罪やいじめによる自殺等が多いことに心を痛めている。さらに、親による児童虐待や育児放棄等、現在は、子どもだけでなく子どもを取り巻く大人にも、物の豊かさより心の豊かさ、つまり「情操教育」が必要ではないかと実感している。

自分の特技である日本の伝統文化の生け花や茶道を通して、物を大切にする心、思いやりやいたわりの心、命を大切にする心を培うことで、豊かな心の育成に繋がることを願い、本テーマを設定した。

3．項立て（概要でも良い）

1．テーマ設定理由
2．本論
　（1）生け花・茶道の教育的意義について
　（2）ボランティア活動の経歴
　（3）学校での実践
　（4）地域での実践
　（5）医療機関での実践
3．成果と課題
4．おわりに（謝辞）
※参考資料・文献等